令和２年度　　長野県林業大学校　　評価表

評価　Ａ：目標を上回った　Ｂ：ほぼ目標どおりできた　Ｃ：目標を下回った

長野県林業大学校　教育方針

長野県林業大学校は、長野県林業の近代化を推進するため、専門的な知識・技術を身につけ、農山村地域にあって指導的な役割を果たす技術者並びに林業後継者となる有能な人材を養成することを目的として、行学一致の総合的な教育を行う。

１　一般教養を高めるとともに、専門的な知識・技術を体系的に習得させ、さらに寮生活を通じて人間形成を図らせるなど指導者となるための全人教育を行う。
２　大学、試験研究機関との連携のもとに林業に関する技術並びに知識を習得させ、長野県林業の進むべき方向に沿った教育を行う。
３　実験・実習を重んじ、実践的な教育を主眼として、新時代の社会の要請に対応し得る生きた教育を行う。

重点目標（中・長期目標）	総合評価		評価
日本一の林業大学校を目指す。	日本一の林業大学校を目指すためには、他校に比べ抜群に優れた講師・講義レベル・施設・機械装備であることが必要となるが、それは多大なる予算措置を伴うものとなり厳しいのが現状である。本校では、講義内容の徹底した検討と、他大学・企業などとの連携協定などにより、資産や施設・機械装備をシェアすることにより、より高いレベルの教育内容の実現を目指した。		B
今年度の重点目標	成果（○）と課題（●）	改善策	評価
「将来のあるべき姿」を見据えた、平均ではなく最高の学習環境を目指す講義・カリキュラム・学習活動の推進	○高いレベルを目指した講義手法・カリキュラム・学習活動の見直しの検討を随時教務会議で行い、ハスクバーナとの教育連携によるトップガン研修や高性能林業機械講習を行った。 ○より高度で効率的な学習を行うため、福島県有林を演習林として所管替えして今年度から利用している。 ●新型コロナ感染症対策のため、ＪＬＣ（日本伐木チャンピオンシップ）の中止、また他校との技術交流がなくなり、技術レベルを競うことができなくなった。	・他校と技術交流等によりレベル向上を図ってきた授業は、新たに位置づけした演習林を活用して、高いレベルの実習ができるための関係予算の要望を行う。	B
器具・機械の更新、学習機材・機器・施設の整備	○最新式のトリオブレーキ仕様のチェンソーを計４１台揃え、学生一人に一台の体制でトップガン研修等高度な実習を行った。 ○タブレットパソコンを40台導入し、リモート授業に対応できるようになった。 ○演習林とグラウンドを直結する林業専用道の整備のための測量委託を発注した。 ○フォワーダー台を導入し、自校で高性能林業機械の実習ができるようになった。 ●ＧＰＳなどの機能を使える最新の測量機器の数量が不足している	・必要機器について令和３年度予算要求を強力に行う。 ・演習林の活用を充実させるため、林業専用道の整備を行う。	B
大学等教育機関、行政組織、地域団体・企業等との連携強化	○平成29年5月25日に締結したハスクバーナ・ゼノア㈱との教育協定を更新し、国内最高レベルのチェンソー技術者から講義を受ける「チェンソートップガン講習」を実施した。 ●「信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書」に基づき実施する予定であった高性能林業機械トップガン研修ができなかった。 ●京都・岐阜・長野３林大伐木選手権大会が京都林大で行われる予定であったが、新型コロナの影響で開催されなかった。	・木曽郡内で林大を応援する組織を構築し必要な機材・資金を確保した。 ・関係する学校や企業と連絡を密にしてこれまでの協定や覚書を維持しながら、連携授業の再開に備える。	B
２年生の進路の早期確定と2021年度入学志願者の確保	○面談を重ね本人の意向を把握した上で、早期に具体的な就職先を選定する指導ができている。 ○公務員志望者のため補講時間を増やすなど対応策を実施している。 ●企業側などの学生確保への動きの早期化・活発化への対応	・この状況を維持する努力を継続する。	B

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果（○）と課題（●）	改善策	評価
	学習指導	授業実習内容の充実を図る。	【継】「最高の学習環境」を目標に置きながら、学生の満足度も把握し、質の高い講義内容に進化する努力をしているか。	○高性能林業機械実習・ドローン技術を取りれた森林情報などの講義内容に加え、新たにタブレットパソコンを導入し、より高い内容に進化さるとともに新型コロナ対策に対応した。 ○簡易配置型のエアコンを導入し、夏場の学習環境を向上させた。 ○講義の場所を、密となる教室から距離の確保ができる講堂や製図室へ変更した。 ●新型コロナ感染拡大防止のための学習環境の整備	・必要機器について令和３年度予算要求を強力に行う。	B
			【継】　学生が、自ら考える力を習得するよう指導できたか。	○学生の自主性により、これまでにない多様な視点と方向での学習活動が展開されている。 ●学生の希望が多様化しており、林大内部の教務担当者だけでは指導しきれない面があるとともに、研究・調査時間の確保が大きな課題である。	・自主研究の時間を確保する。	B
			【継】　現場に促した知識の取得、技術力の向上を目標とした実習内容を行なったか。	○関係機関との連携協定・覚書を締結することで高いレベルの技術者や環境・機材を使用しての実習を可能にし、学生の技術力向上が促進されている。	・地元林業士の協力を得ながらの実習と、トップガン研修など地域外の人材による研修を平行させて行った。	B
		既存カリキュラムの充実・見直しを図る。	【継】　「将来のあるべき姿」を見据えた、平均ではなく最高の学習環境を目指す講義・カリキュラム・学習活動の推進現場で使える知識、技術、時代変化に対応し、林大らしさを踏まえたカリキュラムの見直しが図られたか。	○森林・林業を取り巻く情勢に鑑みながら、必要な改正を引き続き令和３年度に向けて検討を行う。	・取組を継続する。	B
		効率的・計画的な実習等で学習効果を高める。	【拡】他大学、地域（木曽青峰高校を含む）、企業等関係機関と連携し、実習の向上が図られたか。	○平成29年度に締結、今年度更新した「ハスクバーナ・ゼノア㈱との教育協定」に基づく、国内最高レベルのチェンソー技術者からＷＬＣルールを活用する講義を受ける「トップガン講習」が年2回４日間の日程で実施した。 ●平成29年度に締結した「信州大学農学部、長野県林業大学校及び岐阜県立森林文化アカデミーの連携・交流に関する覚書」に基づく高性能林業機械操作実習は、新型コロナの影響で今年度は実施できなかった。	・取組を継続するとともに、コロナ感染拡大の状況を見ながら、協定や覚書に基づく連携授業を実施していく。	B

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果（○）と課題（●）	改善策	評価
教育活動	進路指導	個々の学生に適した進路選択、希望の職種への円滑な就職を推進する。	【継】・１年生は12月末を目途に将来の進路を確定できるように指導できたか。 【継】・２年生は2月末を目途に就職先を決定できるように指導できたか。 【継】・円滑な就職に向け、インターンシップや個人面談を計画的に実施できたか。	○１年生は計４回の個人面談や就職ガイダンス、インターンシップ等により希望を把握し、進路の方向付けを行った。 ○２年生は随時個人面談を行い就職先を確定し、積極的に相手先に働きかけることにより、進路確定は１月中に概ね確定した。 ●インターンシップがコロナの影響で中止になったり遅れたことが、就職決定の遅れを生じた。	・インターンシップの受入れが遅れることを想定して、年度の早いうちにカリキュラムに取り入れる。	B
			【継】・就職ガイダンスや企業合同説明会、林業労働財団就職説明会などを通じて、円滑な就職への取り組みができたか。 【継】・会社等とのマッチングの仕組みは検討できたか。	○学生の希望を叶えるための個別ミーティングを積極的に行った。また、公務員対策模試など充実させた。 ○インターンシップを行うことにより、会社等とのマッチングが図られ有意義な就職に結びついた。 ○企業説明会に参加することにより、幅広い角度から就職について考えることができた。	・取組を継続する。	B
		就職・進学の情報提供	【継】・学内掲示板、個人面談を利用して、的確な求人情報が提供できたか。	○林大への求人情報を随時掲示するとともにホームルーム等で全員に周知した。 ○適宜個別に情報提供した。	・取組を継続する。	B
	生活指導	社会的規範意識を高め、基本的生活習慣の育成	【継】　規則正しい生活や地域活動を通じて、社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 【新】教務会議の定例化により教授間の情報共有、対策の検討が図られ適切な指導ができたか。	○ラジオ体操及び朝礼への全員参加による新型コロナへの免疫力アップ ○教官及び舎監による適切な生活指導　通期 ○教務会議の開催　２９回(月３～４回開催) ●新型コロナの影響で、地域活動ができなかった。	・取組の継続 ・コロナ感染の終息をみた地域活動への積極的な参加 ・教務会議の開催	B
			【継】　寮の自治会活動を通じて、規律ある生活や組織運営など社会人としての意識を高めることができたか。 【継】　学生自治会の情報共有・役割分担の明確化が図られていたか。 【新】　教授間の情報共有と全員で指導する体制ができたか。	○SNS等による学生活動の情報発信　通期 ・フェイスブック、インスタグラム　約1,000名 ○教官及び舎監による適切な生活指導　通期 ○教務会議での情報共有及び朝礼等での改善指導　通期 ●寮の自治活動である木望祭（学生寮祭）ができなかった。	・取組の継続 ・情報発信の推進 ・教務会議の開催 ・コロナ感染の終息をみた地域活動への積極的な参加	B
	教育設備の充実と適正な管理	林業機械や施設機器の充実と適正な管理	【継】実習等に必要な機械・設備は充分確保されているか。 【継】関係機関との連携により、保有していない高性能林業機械分の必要な機械の効率的な利用ができたか。 【新】演習林の整備に向けて、木曽青峰高校や地域の関係者との協議が図られるか	○フォワーダを導入し、高性能林業機械の実習の充実を図った。（他の種類の機械はレンタルで行った） ●傾斜地での伐倒の安全性の確保を練習できる機器の整備が必要である。 ●ＧＰＳなどの機能を使える最新の測量機器の数量が不足している ●木曽青峰高校との協議が、新型コロナの影響で遅れている。	・必要機器について令和３年度予算要求を強力に行う。 ・木曽青峰高校との協議を充実させる。	B
			【新】林業機械・施設・機器の故障・修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入などにより、適切な管理運営は行われているか。	○機械の補修についてはタイムリーに行い、情報共有もされている。 ○使用後の保守点検は学生により円滑に行われ、新しいチェーンソーの保守点検簿が作成されている。	・取組を継続する。	B
		学校用地や施設の適切な維持管理	【新】学生の安全で健全な生活が確保できる施設の維持管理がなされているか。 【継】　寮の運営に際して、舎監・寮母・学生との情報共有が図られているか。 【継】実習棟・機械庫等は、定期清掃日の設定などにより整理整頓がなされているか。	●学生寮の老朽化が進み、施設の更新が必要となっている。 ○随時情報交換を行って情報の共有を図ってきた。 ○学校スタッフと学生により適正に管理された。	・令和2年度末に男子寮建替え工事着手予定。 ・情報共有については今後も継続して取り組む。	B
学校運営	林大の魅力発信と学生確保の活動	充実した学生募集のPRを実施する。	【継】学生募集のパンフレット及びポスターを作成・配布し、林業大学校への関心を高めることができたか。 【継】オープンキャンパスの開催及び高等学校への訪問など積極的なPR活動を実施することができたか。 【継】2021年度入学者の定員を確保できたか。	○学生募集に向けた学校案内のパンフレット及び学生募集ポスターを作成し、県内のすべての高等学校、県外の入学実績のある高等学校等に配付した。 ○オープンキャンパスについては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止し、代替としてweb上にバーチャル学校案内を開設するとともに、オンラインでの学校説明に対応した。 ○県内のほとんどの高等学校を訪問し、進路指導担当に対し、志願者確保に向けたPRを行った。 ○業界誌に林大の活動状況の紹介記事を投稿し、林大のPRに務めた。 ○林大の活動内容に関する報道機関の取材に協力した。 ●引き続き、高校生をはじめとする若者が林業へ関心を持ってもらえるような取組を行っていく必要がある。	・引き続き、高校生等へ林大をアピールする取り組みを行っていく。	A
		ホームページの充実を図る。	【継】魅力的なホームページとなっているか。 【継】学校の概要及び取組が適切にＰＲされているか。 【継】必要な情報提供が行われているか。	○外部サーバを利用して新しくホームページを立ち上げた。 ○見やすいホームページとするため、学校情報を４つのメニューに分類して掲載している。 ○学校行事により多くの方が参加していただけるよう、お知らせを随時掲載するとともに、主な行事については実施した内容を掲載している。 ○フェイスブックやインスタグラムを利用して学生主導の情報発信を行っている。 ●魅力ある林大をアピールするためホームページを更に充実させる必要がある。	・引き続き、見やすいホームページつくる取り組みを行っていく。	B
	その他	コンプライアンスの実践が図られているか。	【継】法令を順守しているか。 【継】予算が適正に執行されているか。	○授業から学校運営に至るまで法令を順守し実施している。 ●男子寮が耐震基準を満たしていない。 ○限りある予算を執行計画に沿って必要性・緊急性を考慮しながら執行している。 ○予算の執行に当たっては、適正な手続きを経て執行している。	・男子寮は令和2年度末から建替え工事着手予定。 ・よりよい林大をめざし、今後も必要な予算要求を継続する。	B